

# 大豊町合併60周年

地方の行政効率を高め、住民の福祉を増進するため、昭和28年に町村合併促進法が公布されたことを受け、嶺東4村（東豊永村・西豊永村・大杉村・天坪村）が昭和30年3月31日に合併し、面積では県下で最大の大豊町が誕生しました。

平成27年3月31日に合併60周年を迎え、「広報誌ゆとりす」とでは、大豊町の歴史を写真で振り返ります。

思い出を  
たずねて



昭和30年 大豊村役場庁舎（旧庁舎） 起工式

合併時、協定により旧大杉村役場を新大豊村役場としていましたが、旧各村から集まった職員で溢れ、中には廊下や土間にまで机を並べて執務する職員も出てきたため、新庁舎を建設することとなりました。（昭和31年4月落成）

昭和33年5月16日  
薬師橋落成式

旧橋は昭和9年に架設されましたが、21年が経過。老朽化および交通量増加による破損がひどく、そのままでは危険な状態になったため、地元で「薬師橋改築期成同盟」を組織し、落成に至りました。新薬師橋は吉野川にかかる橋では最初のワーレントラス構造を用い、全長118m、幅員5.5mの当時では先進的な容姿を誇っていました。



昭和33年9月 天坪保育所落成

当時の園児数は82人。職員は8人で対応していましたが、昭和52年には、定員が30人となり、平成15年3月31日をもって園児減少（この年度の園児は5人）に伴い閉所。卒園児の総数は439人でした。

昭和34年9月 大平 トマト出荷

昭和34年、大豊村の冷涼地野菜は試作から4年を迎え、高知市の夏場野菜類の2割程度を出荷できるようになりました。特にトマトを中心に良品と清浄野菜が喜ばれ、同年9月には中央市場の仲買人が視察に来村し、大平で座談会が開催されました。

トマトは冷涼な気温で品質が良いので消費者に好まれるとともに、出荷方法が良心的で品揃えが良く、荷造選別もよくできていたことから、県外産の価格の倍以上で取引されていました。



昭和35年10月1日 北川口に国鉄簡易駅新設



昭和36年 第2回畜産品評会（大杉中学校）

昭和39年8月16日  
大豊村消防演習大会  
一斉放水

当日はA級とB級合わせて15台の消防ポンプで板送り競技が行われました。

一試合三回勝負で、風向きや放水の遅速、機敏な動作、ポンプの日頃の手入れによる調子など、いろいろな条件が加わり、一進一退手に汗握る熱戦が繰り広げられました。

この年の試合結果は、A級は杉部が7年ぶりに優勝、B級は馬瀬部が2年連続となる優勝を果たしました。



〈7月号は昭和40年代のできごとについて、掲載の予定です。〉